

インド 大学病院で学生らが法輪功の効果を体感

インドのナーグプルにある政府歯科大学病院の助教授らは3月2日、ウェルネス(健康と幸福の総合的な状態)の授業で1時間、学生や教員に法輪功を紹介した。学生らは法輪功を学び、現在も中国で続く法輪功への迫害について説明を受けた。

学生や教員の感想

この日、自ら法輪功を学習する助教授シュウエタ・ソンワネ博士らは、法輪功は免疫システムや心身の健康に良い影響を与えると、各調査によって判明していると説明した。

1年生のクワイシュさんは、座禅をして、とても落ち着いた気分になったという。「かなりリフレッシュできました。頭痛がしていたのですが、今はとてもいい気分です」

ヨガを知っていたという2年生のコマルさんも、とてもリラックスできたという。カルパック・ピーター助教授も法輪功の効果を実感できたと述べた。そして仕事のプレッシャーやストレスへの対処法として、法輪功を試してみても



■法輪功の五式の功法を学ぶ学生

勧めた。「確かにストレスが軽減されます。今の時代、誰もがストレスを抱えているのですから」

今回の授業をコーディネートしたシュウエタ博士によれば、「学生が気

づき、法輪功の学習を検討することが不可欠です。それによって人生を実りあるものにし、自分の内に本来備わっている良さを見出していけるようになります」

また同博士は、法輪功の原則となる「真・善・忍」という本質的な美德は、個人や社会の幸福に重要な役割を果たしているにもかかわらず、見過ごされがちだという。

「(例えば) 誠実なコミュニケーションは、お互いの理解を深め、対立を解決するのに不可欠です。優しさ(善良さ)は、人が互いに支え合う、思いやりのある社会を作るのに役立ちます。寛容(忍耐)は、平和的な共存の環境を育むのに不可欠です。ですから、学生にこうした原則を教える必要があるのです」

医師として見過ごせない

一方、法輪功は中国で迫害されている。法輪功を学習する引退した医師のアピナッシュ・ゲダム氏は、ナーグプルの学校等を訪問し、同様に法輪功を紹介し、迫害について語っている。

特に、中国共産党が国家公認で行っている強制臓器摘出について話すと、生徒は熱心に耳を傾けたという。同氏はこう語る。「医師として、この大量虐殺を見過ごせません。(臓器移植のために) 患者を中国に紹介することのないよう、この若い未来の医師たちは、中国で現在も進行する強制的な臓器摘出について、知る必要があるのです」

広島 中央公民館フェスティバルで法輪功をお試し体験



■ステージで法輪功の五式の功法を実演する学習者

広島市中区の中央公民館で3月3日、「第23回中央公民館フェスティバル」が開催された。法輪功学習者(以下、学

習者)もフェスティバルに参加し、ステージで腰太鼓の舞を披露し、法輪功の五式の功法を実演した。また、気功の

お試し体験教室も開いた。

学習者は2004年以来、同公民館で法輪功の無料教室や9日間の勉強会を開いている。

法輪功をお試し体験

午後にかかれたお試し体験の参加者からは、手のひらや全身に熱を感じ、体験後には疲れも感じず、非常にリラックスできたという感想が聞かれた。体験後、全員が法輪功の資料と無料教室の資料を持ち帰った。

沖富美子さん(82歳)は、功法を学び始めると、すぐに両足を組んで坐禅できるようになった。体験後、沖さんは「煉功する時に全身が熱くなるのを感じ、とても気持ちがよかったです」と語った。また、法輪功の無料教室の時間について尋ね、今後の参加について真剣に考えていた。

自由交流の時間中、法輪功を体験した一人の男性が、法輪功と他の気功との違いを尋ねた。学習者は「法輪功は心性を修めるこ

とを重視しています。徳の重要性を特に強調し、心身とも健康になる功法です。世界中で1億人以上が法輪功を学んでいます」と答えた。

その男性は続けて「私は心臓の血管が詰まっています。病院では難しいと言われています。法輪功を学んだら、どれくらい効果があるのでしょうか?」と尋ねた。学習者は「『轉法輪』という本を読めばいいと思います。この本には、人はなぜ病気になるのか、どうすれば良い人間になれるのか詳しく書かれています。真・善・忍という宇宙の原則に従って自分の心を変えさえすれば、身体も変わります」と勧めた。

男性は「(生命の) 原点に戻らなければならないですね」と言い、その場の他の参加者も賛同した。

ニュージーランドの人々、法輪功の理念を称賛

ニュージーランドのオークランドでは週末の3月9、10日、クメウ・ショーが開催された。200を超える展示ブースが出展したが、ここに法輪功も参加し、さらには腰太鼓チームと龍の舞チームがパレードに登場した。法輪功のブースを訪れ、法輪功について学んだ多くの人が、4月に開催される「9日間セミナー」への参加を申し込んだ。

「善」と「忍」が世界に広まることを願う

クリス・ペンク氏は、ニュージーランドの建築・建設大臣であり、国土地理情報担当大臣でもある。この日は、トラクターを運転してパレードに参加した。

ペンク大臣は「（法輪功の）真・善・忍の精神は重要

です。こうして皆さんが伝えてくれることを嬉しく思います。コミュニティで多様な文化、様々な声・意見があることを、とても嬉しく思います。そして私は信仰の自由を強く信じていますが、これは私たちが守ろうとしている権利です。『善』と『忍』が世界に広まることを願っています」と述べた。そして坐禅を習ったことがあるというペンク大臣は、リラックスさせて集中力を高める方法に興味があり、法輪功にそれがあんなら試してみたいという。

看護師 静けさと和やかさは身体を癒せる

看護師のキャロリン・パリスさんは、『法輪功の9日間セミナー』に参加することにした。パリスさんが言うには

「『真・善・忍』の理念が好きです。この理念で人々が利己的でなく協調的になれば、世界は平和になるでしょう。難しいことですが、心の奥底から『真・善・忍』を信じて堅持したいと思います。病気も予防できるかもしれません。私は、静けさと和やかさは身体を癒すことができると信じているのです」

法輪功を深く理解したい

法輪功のブースの向かいで出展していたカタリナさん。「法輪功の功法を見ていて、その穏やかさに惹かれました。なので深く理解したいと思いました」

「日常生活のストレスで、混乱した考えが浮かぶことがあります。心を落ち着かせた



■ブースで法輪功の功法を学ぶ人々

いのです。法輪功の功法にとても興味があります。家に帰ったら『轉法輪』の本を読んでみたいと思います」

真・善・忍の理念に賛同

バス会社社長のジェシカ・グレイブスさんは、「パレードの腰太鼓と龍の舞は素晴らしく、中国文化の魅力を味わえました。とても感動し魅了されました」と述べ、真・善・忍の理念に賛同すると語った。

法輪功チームも多様性に彩り 米国の聖パトリックデー



■パレードに登場した法輪功チーム

毎年3月、米国の多くの都市では、アイルランドの伝統的な聖パトリックデーを祝してパレードが行われる。ワシントンD.C.の学習者は3月2日、バージニア州アレクサンドリアで行われた聖パトリックデーの第41回目となるパレードに初めて参加した。

唯一の中国系チームを歓迎

パレードで花車に乗った学習者は法輪功の功法を実演し、これに腰太鼓チームが続いた。パレード組織委員会のクリスティーン・マクラリン委員長によると、今年のパレードには様々な民族のチームが参加しており、多様な文化的背景のチームが歓迎されているという。法輪功チームは唯一の中国系の参加となり、素晴らしいことと委員長

は歓迎した。

迫害に屈しない勇気を称える

この日、初めて法輪功への迫害を知った人もいた。中国で不当に拘束されていた学習者の体験について話を聞いたクリス・ゼットラーさんは、共にパレードに参加したメンバーを呼び寄せ、学習者が語る迫害に耳を傾けた。そして中国共産党（以下、中共）による迫害に直面しながらも、信念を守り続ける学習者の勇気を称えた。

沿道のジョン・ピーターズさんは、パレードに参加した学習者に拍手を送り、「各民族からの参加は素晴らしい。法輪功チームを観ることができてよかった」とコメント。そして「中共による支配に負けずにいる学習者に本当に感

心します。迫害されている学習者に同情します。彼らも自由を手に入れることを願っています」と続けた。

法輪功を知った人々

ティム・バーナーさんは息子を連れて沿道でパレードを観ていた。バーナーさんは昨年、地元のイベントで学習者に会ったという。そして「法輪功は心、身体、精神に間違いなく役立つと思います」と語った。バーナーさんは、特に法輪功の「真・善・忍」の原則を高く評価し、これこそ人間の本性だという。

不動産会社に勤めるマイクさんは、法輪功のことは初めて知ったという。「学習者のパレードは、興味深いものでした。とてもよかったです。衣装もよくて、みんな幸せそうでした」。マイクさんは、横断幕の「真・善・忍」の文字にも気づいた。そして「正しいメッセージだと思います。今の時代に本当に良いと思います」とコメントした。

家族とパレードを観ていたリタさんは、以前ワシントンのナショナル・モールで学習者をみたことがあるという。今回のパレードを観たリタさんは法輪功の資料を受け取り「何も知らないの、読んでみます」と話した。

国府宮はだか祭の日 人々が迫害停止を支持

愛知県稲沢市では、2月22日は例年と異なり、多くの人が自ら学習者に法輪功について情報を求めたという。稲沢市で無料の法輪功教室があることにも関心が高く、友人の分まで資料を持ち帰る人もいた。

学習者は朝8時に「真・善・忍」、「SOS、法輪功への迫害を止めて」等の横断幕を日本語や英語、中国語で掲げた。9時を過ぎると、日本人だけでなく海外からの観光客も途切れることがなかった。

迫害停止を支持

あるイギリス人青年は「SOS」と書かれた横断幕を見て、具体的な内容を探った。中共による法輪功への迫害をやめるよう求めていると知ると、彼は「私は皆さんを支持します！」と表明した。

今年は例年と異なり、多くの人が自ら学習者に法輪功について情報を求めたという。稲沢市で無料の法輪功教室があることにも関心が高く、友人の分まで資料を持ち帰る人もいた。

ある女性は、名古屋の栄から学習者が稲沢市にきたと聞き、祭の観光を兼ねて自分も友人を呼んで法輪功について学んだ。そして法輪功の教室についての情報を求めた。

多くの人が横断幕の前で立ち止まった。中共が人権を侵害し、人々を抑圧していることを知っており、中共の迫害を非難した。中には横断幕の前での写真撮影を学習者に頼む人もいれば、資料を配布していた学習者を「頑張れ」と励ます人もいた。



■資料を配布し、迫害の実態を伝える

佐々木さんの修煉の奇縁

1998年8月、佐々木節子さんの生活に、思いもよらない変化が起こりました。10数年苦しんでいた病気は、いつの間にか良くなり、文字も読めるようになったのです。

幼少時代の苦しい生活

日中戦争の時期、幼かった佐々木さんは、家族とともに中国の東北地方へ渡りました。終戦後、佐々木さんは残留孤児として中国の養父母に引き取られました。しかし、

その養父母の家庭は子供が多く、生活は困難でした。佐々木さんは教育を受けずに16歳で出稼ぎに出て、様々な苦しい肉体労働を経験しました。

80年代、佐々木さんと家族は、ついに日本へ戻りました。しかし、生活の重圧と苦勞により、肺結核、軽い肝硬変、胃病、関節炎、側弯症などの病気を患いました。

法輪功に出会い、文字が読めるように

1998年8月のある日、佐々木さんの長女は偶然、職場の同僚の李さんに会いました。李さんは元々身体が弱く、多くの病気を患ったのですが、その日は生まれ変わったかのように血色が良く、顔もつやつやとして元気いっぱいでした。そして李さんは、この変化は法輪功を学んだおかげだと言うのです。

李さんの紹介で、佐々木さんは法輪功の創始者・李洪志

先生の説法ビデオを見ました。気分が良いと感じ、必ず修煉したいと思いました。そして佐々木さんは、いつものように寛ぎたいと思い、タバコを手に取ってちょっと一服しました。しかし味気なく感じ、吸いたくなくなりました。30年来タバコを吸ってききましたが、こんな風にやめられるなんてとても不思議で、佐々木さんは喜びで胸がいっぱいになりました。

しかし、佐々木さんは法輪功の基本書である『轉法輪』を手にした時、悩んでいました。一文字も読めなかったからです。

当時、56歳だった佐々木さんは一念を抱きました。「私は字が読めるように勉強しなければならない。私は師父の本を読みたい」。佐々木さんは、旦那さんや子供たち、友達から1文字ずつ勉強しました。



■佐々木さん夫婦

法輪功の煉功場では、週末にグループで『轉法輪』を読んでいます。文字の読み方を聞けるばかりか、文字をたくさん覚えることができ、分からないことがあれば直ぐに聞くこともできます。知らないうちに、佐々木さんはだんだんと『轉法輪』が読めるようになっていくことに気づきました。

佐々木さんのご主人は、妻が法輪功の修煉を始めて変化したのを見て法輪功に賛同

し、中国共産党が法輪功を迫害し始めた後に法輪功の修煉を始めました。

法輪功の素晴らしさをより多くの人に伝えたい

佐々木さんは、地元で開催される様々な活動によく参加します。自ら体験した「法輪大法はすばらしい」ということを伝え、中国共産党の法輪功に対する誹謗中傷を信じないように、法輪功に関する資

料を多くの人に送っています。

20数年来にわたって続けてきた法輪功の修煉は、佐々木さんご夫婦の生活に欠かせないものとなっています。佐々木さんは、いつも会う人にこう言います。「法輪功がすべてを持ってきてくれたのです。縁ある人が法輪功を修煉することを希望します。そうすれば、たくさんものを得ることができます」

損保会社のシニア・マネージャー、『轉法輪』で人生が変わる

劉秉華さんは、台湾の損害保険会社のシニア・マネージャーです。若い頃には、自殺を考えたこともありましたが。そんな時に『轉法輪』の本を手に入れ、そこから人生が好転しました。

不幸な子ども時代

劉さんが幼い頃、母は家族を捨てました。近所の人からは、母なし子と言われました。「父は製麺業の経営に忙しく、私に構う時間は全くありませんでした。家屋も酷くて、屋根から雨漏りして、寝ている私の顔に当たるほどでした」

高校を卒業したが自殺寸前に

そして大学受験に失敗した劉さんは、兵役を果たしながら、どうすれば財産を築けるかを考え続けました。そして弁護士になろうと決意しました。

しかし結局、司法試験には

合格できませんでした。劉さんは打ち砕かれ、自分の人生を終わらせようとしていました。そんな時、友人から『轉法輪』の本を渡されました。

『轉法輪』で人生が変わった

「『轉法輪』を三分の一ほど読むと鼻水が出始め、40度を超える高熱が出ました。何度も医師の治療を受けたのですが、症状は消えませんでした。友人は私にその本を読み終えるようにとアドバイスしてくれました。私は読み続け、5セットの功法をオンラインで煉功しました。すると体の症状は消えました。これは李洪志先生が私の体を浄化するのを助けて下さったのだと分かりました」

「法輪功を学び始めて間もなく、輸入タバコを一箱もらいました。まさに『轉法輪』で説かれたとおり、タバコの箱を開けた直後に吐き気に襲われました。数日待って再

チャレンジしましたが、吐き気は続きました。私は喫煙をやめ、麻雀もやめました」

「法輪功を学んで、人生の本当の意味、なぜ自分がどのように安排されているのかを学びました。私が困難や苦痛に遭遇するたびに、大法は私に最善の方法で対処するための知恵を授けて下さいます」と劉さんは語ります。

「真・善・忍」を実践して向上

職場では、劉さんは「真・善・忍」の原則に従って自分の考えや行動を律しています。ある時、シニア・マネージャー全員が出席した重要なプレゼンテーション中に、劉さんは報告書の計算ミスで叱責されました。そのミスは、部下によるものでした。劉さんは、以前の自分なら部下に責任を押しつけていたと言います。

「法輪功を学んで、たとえ私に不利であっても、自分の



■劉秉華さん（左）と家族

不足を内省します。私は相手の立場に立って、部下の努力を認めました。この件を聞いた部下が私に相談に来たとき、私は冷静に状況を説明し、次から互いにミスないように気をつけようと言いました」

長年にわたる、母への恨みを捨てる

劉さんは、幼い頃に自分を捨てた母に怨恨の心を抱いていましたが、今では手放しています。人にはそれぞれ運命があり、あらゆる出来事に理由があると理解したのです。「恨みを捨てて、時間があるときは母と一緒に食事をするようになりました。母だけでなく、妻と子供にも気を配っています」

専門チームの調査結果、病気治療の有効率97.9%

1992年5月13日、法輪功（法輪大法とも呼ばれる）の創始者・李洪志氏は中国の長春市で心身を鍛える精神修養法を伝えた。

その「真・善・忍」の教えは人々の道徳の向上を導き、五式の動作は健康回復に顕著な効果があると口コミで広がった。そして大多数の法輪功学

習者（以下、学習者）は短期間で病気が良くなり、体が軽い状態を取り戻すことができた。

以下では、広東省の12,553人の学習者を対象として、医師や医学教授等の専門家で構成されたチームによって1998年9月に実施された調査結果を紹介する。

有効率が97.9%

調査対象は、男性が27.9%、女性が72.1%。50歳未満が48.4%、50歳以上は51.6%。一種類以上の疾病を患っていた学習者は10,475人で、2~3カ月から2~3年という期間を経て、全治および基本的に回復したのは77.5%だった。症状が好転した20.4%を加えると、健康回復の有効率は97.9%に至る。

7,170人の学習者が1年間に節約できた医療費は、合わせて1,265万元（約2.5億円、1998年の都市部労働者の平均賃金は約15万円）。89.4%の学習者は法輪大法を通じて精神状態が落ち着き、道徳が向上したという。徹底的な自我の抑制と向上も見られた。

多くの人が実感した不可思議な現象

一、驚異的な改善のスピードと効果

多くの学習者は、法輪功を学んで心身ともに改善した。しかもそのスピードと効果は驚異的であった。李先生の講義を聞いてから、あるいは自宅で法輪大法の書籍を読んでから3~5日以内に病気の症状が消え、全身が軽くなった者もいた。大多数は数カ月あるいは1~2年以内に病気の症状が完全に消えたか、好転した。調査対象の12,553人のうち、98%は数年以内に病気治療と健康保持の効果が現れた。一方で、2%の学習者が表面的に効果がないと回答した（ただしその中には、煉功を始める前にもともと元気だった学習者も含まれる）。

二、現代医学の奇跡

多くの学習者は、「薬土瓶」（常に薬を飲む人のこと）か、

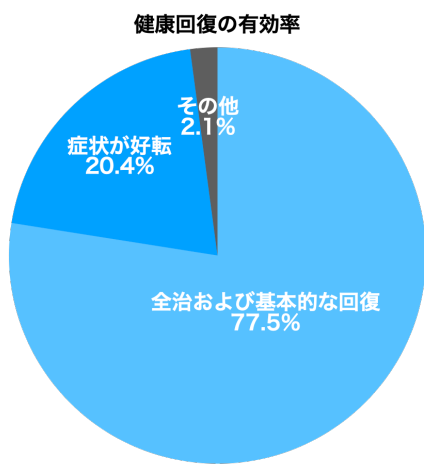
あるいは病院の常連だった。煉功を始めてから間もなく、薬を飲むことも注射もしなかったが、病気が悪化したり、再発したりせず、かえって身体状況はますます良くなった。

三、不治の病も回復

学習者の一部は医学的に頑固な病気、不治の病、あるいは診断できない病気を患っていた。しかし法輪功を通じて、奇跡的に回復した。

四、若返り

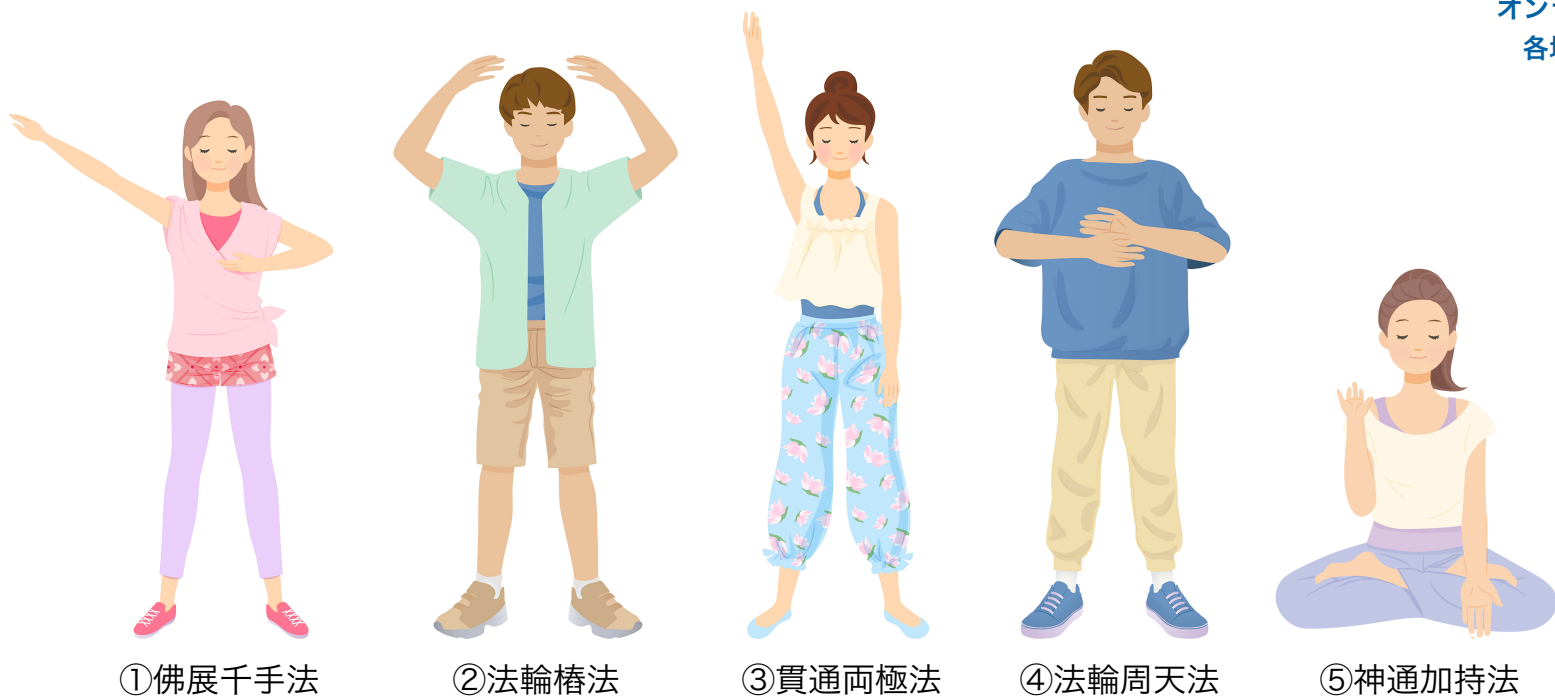
病症が消えただけでなく、体が若い方向へ戻る現象が現れた。年配の学習者の皺が少なくなり、髪の毛が黒くなり、顔色に赤みが差したり、皮膚に張りが出てつるつるになる現象が現れた。特に解釈できないのは、多くの年配女性に生理が戻ったことだった。



心と体を鍛える法輪功 5セットのエクササイズ



オンラインレッスン
各地の気功教室



『法輪功』（ファールンゴン）

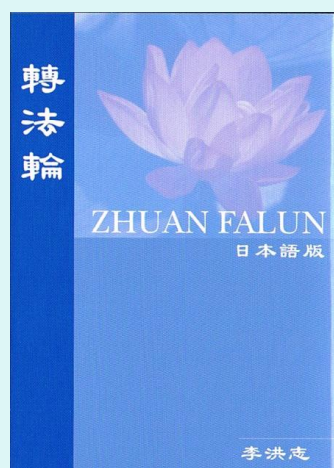
1993年に中国で発売され反響を呼んだ話題の一冊。心身ともに健康になる中国伝統の気功修煉法「法輪功」の入門書。



無料で読む



書籍を購入



『轉法輪』（ジュワンファールン）

1996年に中国北京でベストセラーとなった。「真・善・忍」を理念とする法輪功の修煉を、体系的に指導する最も主要な書籍。



無料で読む



書籍を購入

新たに10人の法輪功学習者が迫害により死亡、2月に判明

明慧ネットの統計によると、新たに10人の学習者が中共の迫害により死亡したと2月に判明した（吉林省に4人、甘肅省に2人、河北省、黒竜江省、江蘇省、遼寧省はそれぞれ1人。なお実際に死亡した年は2024年に5人、2023年に3人、その他2人）。

これらの学習者は生前、不当な連行や嫌がらせ、拷問などの迫害を受けたことがある。うち9人が不当な判決や労働教養処分を科され、1人は身柄を拘束されたことがある。以下は、学習者が迫害されて死に至った事例の一つである。

旧正月の元日 劉殿元さんが刑務所で迫害され死亡

遼寧省朝陽市の学習者・劉殿元さん（当時78歳）は

2016年、法輪功の真・善・忍の信念を守り続けたとして、朝陽市建平県裁判所から懲役11年6カ月の実刑判決を言い渡された。法輪功は法輪大法とも呼ばれ、心身を健康にする伝統的な修煉法である。しかし中共は1999年7月以来、この修煉法を迫害してきた。

そして劉さんは、8年後の2024年の旧正月の元日、瀋陽第一刑務所で迫害により死亡した。享年86歳。

1938年に生まれた劉さんは、若い頃から有能で高収入を得ていたが、過労により健康状態が悪化し、坐骨神経痛や胃潰瘍、十二指腸潰瘍、慢性肝炎、神経衰弱などの病気を患った。

しかし1995年に法輪功を学び始め、真・善・忍の基準に従って良い人を目指した。すると、すべての病気の症状が消えた。

2001年7月31日、65歳だった劉さんは、警官らにより連行され、懲役7年の実刑判決を宣告された。内モンゴル自治区赤峰市の第四刑務所で、劉さんは1日10時間以上の労働を強いられ、さらに刑務所の精神病院に10カ月間、閉じ込められ、毎日大量の薬を300日以上飲まされた。

2015年11月9日午前10時頃、劉さんは凌源市鉄西一街にある妹の家に行ったが、押し入った建平県国内安全保衛部門の警官ら7、8人に連行され、建平県留置場に拘禁された。そして2016年6月14日に遼寧省瀋陽第一刑務所に送られた。

2022年の中秋節の期間中、刑務所は家族に電話をかけ、介護のおむつを購入するよう指示した。家族は、84歳の劉さんが寝たきりになるまで拷

問を受けていたことを知った。情報筋によると、劉さんは生前に受けた迫害によって障害を負い、1年間は身の回りのことができなかった。しかし瀋陽刑務所は重病による一時出所を拒否し、劉さんは死亡した。

李玉珍さん 黒竜江省女子刑務所で迫害され死亡

ハルビン市道外区の学習者・李玉珍さんが今年1月初め、黒竜江省女子刑務所での迫害により死亡した。享年約74歳。李さんは、中共によって迫害されてきた精神修養法である法輪功を実践していたことで不当に投獄されていた。

李さんは、中共から何度も迫害を受けた。初めて連行されたのは2003年3月15日で、他の学習者の家を訪問した時

だった。警官は李さんの衣服のポケットを調べ、中に入っていた1700元（約3.4万円）の現金を奪い取った。そしてハルビン市第二拘置所に移送された李さんは、手錠と足枷を鎖で繋がれて立ち上がることができなかった。鎖は4か月間、外されなかった。

その後、李さんは街で法輪功への迫害の実態を人々に伝えていた際に連行され、2007年には労働教養を1年間、2013年には15日間拘束された。

そして2021年6月10日にはハルビン市道外区裁判所で不当にも懲役4年の判決を受け、1万元（約20万円）の罰金を科された。そして2022年1月7日に黒竜江省女子刑務所に移送され、そこで迫害を受けていた。

不当に12年6ヶ月拘禁された楊順梅さん さらに懲役2年



北京市海淀区市四季青郷に在住の学習者・楊順梅さん（65歳女性）は、法輪功への迫害について人々に伝えたとして、2022年7月14日に自宅に押し入った警官に家宅搜索され、連行された。

その後、海淀区留置場に移送されたが、2023年に海淀区中級裁判所から不当に懲役2年の判決を宣告された。楊さんは現在、北京の大興女子刑務所に拘禁されている。刑務所側は、家族との面会を許していない。

かつての楊さんは、子宮筋腫や腰や足の痛みなど多くの病気に苦しんでいた。治療しても治らなかったが、1998年から法輪功を学び始めると、患っていた病気が消えた。

12年6ヶ月の不当拘禁

中共は1999年7月20日に法輪功への迫害を開始したが、楊さんは法輪功を学び続けているという理由だけで、2001年に労働教養（強制労働や思想教育を行う）処分、2003年、2009年、2015年に3回の実刑判決を下された。合

計12年半にわたって不当に拘禁された楊さんは、さらに懲役2年の判決が下され、今現在も刑務所に拘禁されている。

労働教養処分（1年6ヶ月）

2001年に連行された楊さんは、1年6カ月の労働教養処分を受けた。北京女子労働教養所で楊さんは、強制的な洗脳、睡眠の剝奪、トイレの制限、暴言を受け、長時間にわたり小さなベンチに座ることを強制されるなどの拷問を

受けた。さらに、箸を包む、段ボール箱や紙袋の糊付け、セーターを編む、袋を作るなどの労働を強制された。

懲役3年

2003年、楊さんは朝陽区で法輪功についての資料を配布している際に連行され、豊台拘留所と朝陽区拘留所に1年近く拘禁された後、懲役3年の判決を言い渡された。北京女子刑務所の第一監区に送られた楊さん

は、強制的な洗脳、苦役などの迫害を受けた。

さらに懲役4年

2009年3月11日午後7時頃、楊さんは人に法輪功への迫害の実態を伝えたとして、十数人の警官に自宅から連行され、家宅搜索を受けた。

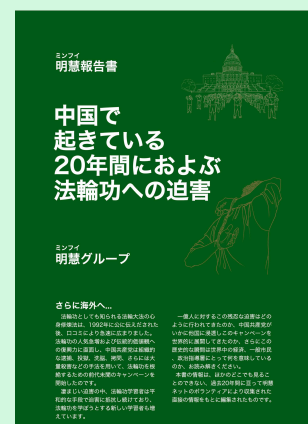
その翌日、楊さんは海淀区清河鎮留置場に移送された。その後、4年の懲役を言い渡された楊さんは、北京女子刑務所の第三監区に拘

禁され、さまざまな拷問を受けた。

再び懲役4年

2015年3月27日夜7時20分、楊さんは、海淀区で人々に法輪功への迫害の実態を伝えたため、四季青派出所の警官4人によって連行された。警官は家宅搜索を行った後、楊さんを海淀区温榆路留置場に拘留した。2015年12月16日、楊さんは北京市海淀区裁判所で裁判にかけられ、懲役4年の判決を宣告された。

書籍『明慧二十周年報告書』



過去20年間、中国本土の法輪功学習者が直面してきた迫害状況の記録。

中国共産党が他国の指導者や企業を脅迫することにより、海外まで迫害の手を拡大してきた実態が記されている。

PDFファイル、全333ページ
無料ダウンロードはこちら



米議会 公聴会で中国における生体臓器収奪の犯罪を検証

中国に関する議会行政政府委員会（Congressional-Executive Commission on China 略称: CECC）は3月20日、「生体臓器収奪の犯罪を阻止するため、さらに何をなすべきか？」をテー

マにした公聴会を開催した。

スミス議員「生体臓器収奪は残虐行為」

CECC委員長のクリス・スミス下院議員は冒頭で

「この人権侵害は、現代における恐ろしいものであるが、悲しいことに広く注目され非難されるには至っていません」と述べた。そして「良心の囚人からの強制的な臓器摘出が長らく行われており、多数の被害者が出ています。主な被害者とは、法輪功学習者、ウイグルの人々です」「中国で生体臓器収奪は産業規模で行われており、邪悪な残虐行為です」と続けた。

スミス議員はまた、米下院が「2023年強制臓器摘出停止法案」を可決したことにも触れた。この法案は、米務長官に対して、中国での違法な臓器売買に関与する個人のパスポートやビザを拒否する権限を与え、国務省に生体臓器

収奪の状況について報告することを義務づけ、臓器収奪を幫助する個人や団体に対しての制裁を可能とする。

「沈黙は、特に医師会や企業にとって許されないことです。もし沈黙を続けられ、人道に対する犯罪に加担することとなるリスクが高いのです。もし私たちが今行動しなければ、さらに多くの命が失われるでしょう」

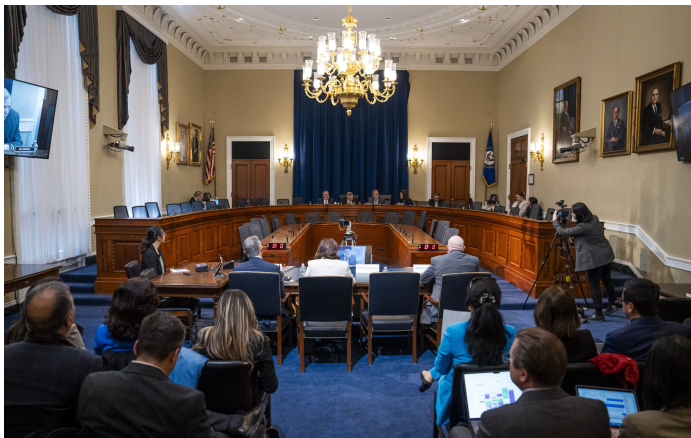
スティール議員「2度と起こらないようにするべき」

スティール下院議員（カリフォルニア州）は、中共による強制臓器狩りという犯罪を議会で明らかにすることは極

めて重要として、「米国政府は、あらゆる手段で証拠を見つけ、このようなことが2度と起こらないようにするべき」と述べた。

ナン議員「臓器収奪は現在、この人口大国で起こっています」

ザック・ナン下院議員（アイオワ州）は「2006年、独立機関による報告書によると、中国では何万人もの法輪功学習者が拘束され、生きたまま臓器を摘出されている」と指摘。「これはSF映画でもなければホラー小説でもありません。今日の人口大国で起きていることなのです。大規模に人を殺す残虐行為は止めなければなりません」と述べた。



■3月20日、CECCは下院で公聴会を開き、中共による生体臓器収奪の犯罪を阻止することに焦点を当てた

ジュネーヴ 国連外交官らが法輪功への迫害に反対

スイスのジュネーヴのパレ・デ・ナシオンで1月22日と23日、UPR（国連人権理事会の普遍的・定期的レビュー：全ての国連加盟国を対象に約4年半のサイクルで人権について審査）の会議が開催され、各国から代表者が出席した。この2日間、ヨーロッパから集まった学習者は、国際連合広場で法輪功の普及活動を行った。学習者は、法輪功に対する中共による迫害について各国からの出席者に伝え、迫害の停止を訴えた。

2日間の活動

スイスだけでなくフランスやドイツ、チェコ、フィンランドから集まった学習者は、ここで功法を実演し、横断幕を掲げる等、さまざまな活動を行った。多くの人が立ち止まり、中には法輪功についての詳細を尋ねる人もいれば、学習者を祝福し、励ます人もいた。UPRの会議に参加する多くの代表もここを通ったが、メキシコから訪れた2人の代表は、アメリカのアトランタで法輪功と生態臓器摘出について聞いていたという。

国連外交官 沈黙を続けるべきではない

1月22日の会議に参加したある公務員は、迫害を止める請願書にサインした。彼は「国連で証言を聞きました。法輪功の学習者の苦しみを理解しています」と述べた。

ある国連外交官は、中共による迫害と臓器摘出に愕然としていた。法輪功への迫害が25年間も続き、多くの学習者が死亡している事実で動揺し、「沈黙を続けるべきではない」とコメントした。そして学習者が真・善・忍の価値観を広めていることに感謝した。



■ジュネーヴの国際連合広場で活動

ある非政府組織の代表について説明すると、驚愕は立ち止まり、横断幕を撮影した。彼は仏教徒で、資料を受け取り、国連で働く同僚に渡すと述べた。学習者が迫害に

ブルガリアのメディア、法輪功への迫害を報道

ブルガリア南部の学習者は1月27日と28日、ガブロヴォとスタラ・ザゴラで法輪功への迫害の実態を伝える活動を行った。

初めて迫害を知った

学習者は展示パネルを設置して横断幕を掲げ、中共による法輪功への迫害の停止を求める署名を集めた。上海を訪れたことのある女性は、法輪功への迫害を初めて知ったという。「恐ろしい。こんなこ

とが起こるなんて信じられません」と言い、こうして署名する機会が得られたことに感謝した。

健康フェスティバルで法輪功を紹介

同日、学習者はガブロヴォ市で開催された健康フェスティバルにも参加し、法輪功の理念や健康への効果を紹介した。

フランス人男性のビジャンさんは、ブルガリア人の友人ヤナさんと法輪功のブースを訪れた。そして法輪功の書籍を読み、李洪志先生の説法録音を聞いた。そして法輪功を学ぶための

連絡先を聞き、法輪功への支持を示すためにヤナさんと共に署名した。

中共の迫害にショック

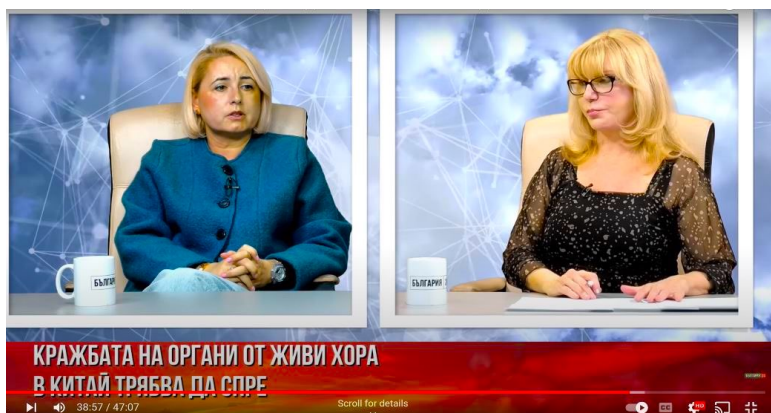
1月27日、学習者はザゴラ旧市街で迫害についての展示パネルを設置し、中共の残虐行為を伝えた。自転車に乗った男性が詳しく知りたいと言うと、学習者は「請願書の一つは、中共による人権侵害行為の即時停止を求めるもので、もう一つは臓器の違法取引の共犯者にならないよう呼びかけるものです」と説明した。迫害について知らなかった

男性はショックを受け、二つの請願書に署名した。

メディアによる報道

学習者のクルモバさんは、ニュース番組「24TV」に招かれ、中共による法輪功への残酷な迫害について語った。そして国連が中国に対する普遍的・定期的レビュー（UPR）を行っている最中であり、強制臓器摘出に反対する医師組織（DAFOH）が中共による生体臓器狩りの現状を伝えたと述べた。

さらにクルモバさんは、DAFOHが国連加盟国に送った公開書簡を紹介し、欧州議会が中共による法輪功への迫害を譴責する決議を採択したことにも言及した。



■ニュース番組「24TV」に招かれたクレメナ・クルモバさん（左）

三国時代の名医 華佗

華佗（かだ）は、字が元化、名を敷と言いました。後漢末期に生まれた三国時代の名医です。華佗は医術の研鑽に励み、外科手術に精通し「外科手術の名手」と称されました。

弟子入り試練

華佗は幼少期から頭が良かったのですが、7歳の時に父親が亡くなりました。母親は父親の親友の蔡医師の弟子となるように、華佗を送り出しました。蔡医師は「この子は医学の勉強に向いているのだろうか。まずは試してみよう」と思いました。

蔡医師は、桑の葉を採取している弟子たちが、一番高い所に手が届かずに困っているのを見ました。蔡医師は華佗に「一番上の葉を取れるか」と聞きました。華佗は縄に小石をつけて、高い枝に向けて投げました。縄が高い枝にかかり、重さで枝が垂れ下がりました。華佗は桑の葉を採取しました。

2頭の羊が、角突きをしながら争っていました。蔡医師が「華佗よ、2頭の羊を引き離すことができるか？」と聞くと、華佗は草を取ってきて、羊の両

側に置きました。羊は角突きをやめて草を食べ始め、争いを止めました。蔡医師は、その場で華佗を弟子としました。

並外れた医術

『後漢書』（中国後漢朝について書かれた歴史書）によると、ある將軍の妻が病気になる、華佗に診察してもらいました。華佗は「妊娠中の怪我で、お腹の子が亡くなり、まだそこに残っているからです」と告げました。將軍は、胎児はすでに流産したと答えました。華佗は胎児がすでに命を枯らしてしまい、自然に出産することができず、人の手で中から取り出さなければならないと言いました。そして、取り出し方を伝授しました。その結果、亡くなった胎児が無事、取り出されました。

仙人が医術を伝授

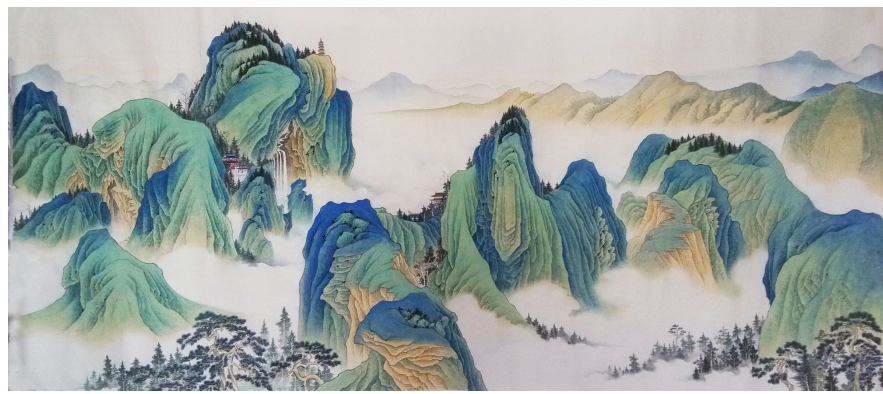
華佗は、よく名山や洞窟を訪ねました。ある日、古洞の前に来た時、1人の仙人が「華佗という生徒がいるが、彼に医術を伝授できる」と言うので、もう1人の仙人が「彼に伝授してはならない」と話すのが聞こえてきました。

華佗は仙人を拝み「私は医術が大好きです。医術を伝授してください」と申し出ました。すると仙人は「医術を伝授してもいいが、将来、おまえに累を及ぼすかもしれない。しかし金銭に拘らず、苦勞を恐れなければ、難から逃れることができるだろう」と言いました。そして笑顔で「石の床に本が置いてある。自分で取りに行きなさい」と言いました。華佗が本を手にとって振り返ると、仙人は消えていました。華佗はすぐに洞窟から離れました。その瞬間、洞窟は崩壊しました。

処方箋で善を勧める

三国時代、叔父の楊修（後漢末期の政治家）と甥の楊宥は、曹操に仕えていました。楊修は主簿（文書作成を職務とする）で、楊宥は軍需官でした。楊修は何度もタブーを犯し、曹操に士気を乱すという罪名で処刑されました。

一方、楊宥は兵營の糧餉（※1）を管理していました。彼は不当に利益を得ていました。叔父の楊修の処刑後、楊宥は突然妙な病気にかかりまし



た。多くの医者に診てもらいましたが、病状が一向に好転しません。

楊宥は、華佗に診察に来てほしいと頼みました。しかし、華佗は断りました。楊宥は仕方なく息子を送りました。息子は、泣きながら頼みました。華佗は診察に同意し、処方箋を書きました。

楊宥が処方箋を見ると「二鳥、過路黄、香附子、連翹、王不留行、法夏、葶苈、辰砂」と生薬の名前が書いてありました。八つの生薬の頭文字を繋げて読めば、「二つの過ちが重なり、王法は必ず処罰する」と言う意味だと分かりました。虫のいい計算が見抜かれ、楊宥は真っ青になりました。楊宥は、ぼろ儲けする邪念を取りやめました。

2枚目の処方箋を見ると、楊宥は大声を上げ、口から吐血して気絶しました。家族は驚き、大泣きしました。

処方箋に六つの薬名が書かれていました。頭文字を繋げれば「あなたに棺桶を与えよう」との意味でした。楊宥は怯えました。

楊宥は、家族の泣き声で目を覚ました。彼が目を開けると、病気はなんと全快しました。

華佗は楊宥に「これから処方をお願いします。それを服用すれば、きっと回

復するでしょう」と言いました。楊宥はそれからというもの、軍需品をピンはねしなくなりました。

華佗の医道の由来

王勃は唐の詩人で、有名な『滕王閣序』は彼の作品です。王勃は、親友の曹元から医学を学んでいました。王勃は医学書『黄帝八十一難經』の中で「医道の伝承の順は、岐伯→黄帝→九師を経て、伊尹→商湯→六師を経て、姜太公→文王→九師を経て、医和→六師を経て、扁鵲→九師を経て、華佗→六師を経て、黄公→曹元」と明かしました。

「医道」は上帝（玉皇上帝）に起源し、その後、先師（岐伯の先生）と岐伯を経て、黄帝（上帝→先師→岐伯→黄帝）に伝えられ、黄帝がそれを雷公に伝え、その後、殷と周朝の王室に伝えられ、さらに戦国時代の扁鵲（へんじゃく 2400年前）と後漢末期の華佗（1800年前）に伝えられました。扁鵲と華佗が「神医」と称されたのは、彼らが黄帝の「医道」の真の弟子で、彼らが身に付けていた人体透視能力や、「神業」と呼ばれた、外科手術の技も「医道」の凄さの顕れでした。

※1 糧餉（りょうしょう・兵糧。かて。「かて」はたくわえておく食物のこと）

八仙人の伝説：強欲を嘆いた呂洞賓

呂洞賓は、かつて漢鐘離（中国の代表的な仙人で、八仙の一人）に誓いを立てました。天下の衆生を救い済度すると決意したのです。しかしまだ一人も済度できておらず、彼は岳陽の地に向かいました。

油売りとして

呂洞賓は油売りの服装をして、油を売る名目で人々を済度しようとしていました。油を買う際に多くを求めない人がいれば、その人を救い済度するつもりで

した。そして数年間、油を売り歩きましたが、出会った客は、みな過分な要求をする利己主義者でした。

ただ一人、ある年配の婦人だけが多めに油を欲しがりませんでした。呂洞賓は、この世にも済度できる人がいるのだと驚きました。そして老婦人に「油を買う人は通常、多めに欲しがらないのですか？」と聞くと、老婦人は「私は一壺の油があれば十分です。あなたが油を売るのも容易ではありませんね。多めに求めてはいけません」と答え、さらに呂洞賓に酒を与えました。

井戸の酒

呂洞賓は、この老婦人を救いたいと考えました。彼女の庭に井戸があることに気づき、井戸にいくつかの米を投げ込みました。そして「この井戸の水を売れば、大金持ちになれるですよ」と言いました。老婦人はもう少し座っているように誘いましたが、呂洞賓は何も答えず、去って行きました。老婦人が振り返ると、井戸の水はすべて酒に変わっていました。彼女は呂洞賓の言葉に従って一年間、井戸の酒を売り続け、大金持ちになりました。

飽くなき欲

ある日、呂洞賓が老婦人の家を訪れました。しかしまたまた老婦人は不

在で、息子だけがいました。呂洞賓が「この数年、酒はどれくらい売れましたか？」と聞くと、息子は「酒は良いのですが、豚の餌になるような酒かすがありません」と答えました。さらに豚の餌まで欲するその言葉を聞いた呂洞賓は「人の心の飽くなき欲は、こまできてしまった」と嘆いて、井戸の中の米を取り戻し、老婦人の家を去りました。しばらくして老婦人が帰宅すると、息子が起こったことを話しました。老婦人が井戸をのぞくと、井戸の酒がすべて水に戻っていました。老婦人は慌てて外に出て追いかけてきましたが、呂洞賓の姿は見えませんでした。



写真特集



① 聖パトリックス・デー・パレード (3/16) に参加した学習者 (サンフランシスコ)

② ハイドパーク・フェスティバル (3/3~4) に母親のクスマさん (左) と来場したスパノさん (右)。功法で心が落ち着き、冒頭を読んで心が動いた書籍『轉法輪』を購入 (オーストラリア)

③ 芸術祭 (2/24) で学習者と記念撮影したヴィンス・コクルロ市長 (左から3人目)。「真・善・忍の理念は非常に重要です」とコメント (ニュージーランド・ファンガレイ)

④ プリオクスキー文化宮殿で開催された「オカ・メリ民族文化祭 (2/18)」に文化局から招かれた学習者 (ロシア)

⑤ 法輪功への迫害反対を支持し署名する市民 (スペイン)

⑥ エキスポ (3/8~10) で功法を体験した日本人キャリアウーマン3人 (左)。身体が軽くエネルギーに満ち溢れているのを感じたという (トロント)

明慧ネットとは



明慧 (ミンフイ) ネットは、1999年に中国語サイトを立ち上げ、2001年7月に日本語版を開設しました。

法輪功について紹介すると同時に、世界各国の活動や、人々が法輪功を学んだ体験談を掲載しています。

また、中国本土で独自の情報伝達システムを構築し、危険な状況の中、現地から直接入手した情報を毎日大量に発信し、中国共産党による法輪功への迫害事実を報告しています。

明慧ネット日本語版
<https://jp.minghui.org/>

